

昭和五十六年 **本堂再建** が始まりました。

それまでは、明治二十四年の濃尾震災後に美濃（高須藩）の武家屋敷を二軒解体し方丈殿として 建立された一棟が 雨が降れば交響曲を奏で、雪が降れば布団の上に ちらちらと舞い込み 昭和三十四年の伊勢湾台風と翌年の集中豪雨で 壊滅的状况となりこの時 宝児童園が昭和五年から 併設され毎日子供たちの 元気な声が 津島神社まで響き渡っていました。閉園となりました。

昭和四十四年住職病没 皆の期待を一身に受け専修学院へ入学した弟は 卒業後、一ヶ月で急逝 現在長老の母が、女性として はじめて正式に専修学院へ入学、苦学の後卒業。元神宮寺の再建の途に着きました。

ツタの生い茂った寺の庭は 指を伸ばす暇も有りません。この時 檀家のない寺を維持することの 困難さをいやというほど知りました。本堂再建に際して 永代経を五十名の方に あげて頂き 宝寿院の母体が出来、いよいよ昭和五十七年十月十日 **落慶法要** 四百五十名の稚児行列が津島神社の門前町を練り一十五名の寺院方の参列を得て、夢の二箇法要を勤修することが出来ました。

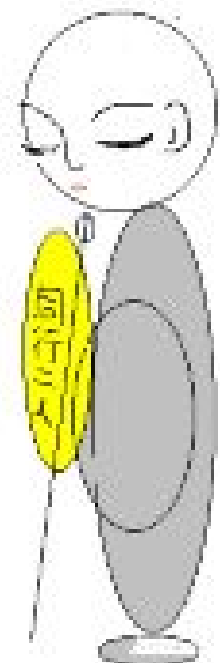
あれから二十三年本堂の改修塗替工事も無事完了し、母は九十歳(卒寿)となりました。様々な困難を乗り越えて 本尊薬師如来様のお力は、今も 信長・秀吉の信仰を受けられた時と変わらず **厄除け薬師**として皆様の篤い信仰を受け止めて下さっています。この陰に 明治元年の神仏分離の激変に私財を投げうち この地に宝寿院を残された先住 宥三僧都の努力がありました。

廃仏毀釈の波は 僧侶にも及び 神道に変われば 寺領など財産身分は保証される中で、宥三僧都は 『どんなに貧しくなろうとも 仏法は捨てないぞ』と、かたい覚悟で 神宮寺（現在の津島神社）の仏像・仏画・法具の類を 長持ちに入れ 現在の宝寿院へ運び 焼き討ちを逃れたのでした。

神宮寺宝寿院住職 宥三の日記【市文化財】**寺寶展**【三月二十一日】に公開しています。併せて **写経会**を一日中開催しています。ぜひ来年、弘法大師の御影供に参加下さい。

ぼだい樹 ★
投稿 ★
歓迎 ★
大募集 ★

弘法さまと二人



同行二人

密厳流御詠歌

本四国八十八ヶ所遍路を 札うつ時 たった 独りの旅も お大師さまと私。四国路を 発心・修行・菩提・涅槃と廻ります。

いつか、又 お大師様と二人で

『四国へ 出かけた』と 熱望しています。

あなづれし

ゆくも かえるも

とどまるも

われは だいしと

ふたりづれなり

協力感謝

おせがきにお寄せ頂きました募金は ユネスコ子供募金へ 三万円寄贈いたしました。併せて中部盲導犬協会へ 今年度二万円を 寄贈いたしました。ご協力感謝申し上げます。蟹江文責

送付先

〒496-0851

住所 寺名

愛知県津島市

神明町2番地

元神宮寺

宝寿院

電話

056725・4154

